


 書評

相馬一玄 監修, 上條吉人 著

イラスト&チャートでみる

急性中毒診療ハンドブック

白川洋一

救急医療の現場で役立つ急性中毒診療の指南書

本書の著者である上條吉人氏の名前は思い出せなくても、よく通るテノールの声と、10 m 先にいるマムシでも射すくめてしまいそうなギョロ目を知らない者は、臨床中毒学の関係者のなかにはいないだろうと思う。さまざまな学会や研究会の場で、鋭い質問を浴びせられてタジタジとなった経験を持つのは、おそらく、私ひとりではないはずだ。それだけ多くの経験を積んだ臨床家であり、同時に、深く勉強している臨床研究者でもあることは万人の認めるところだろう。昨年から、日本中毒学会の機関誌である『中毒研究』誌の編集委員としてもご活躍中のホープである。

そんな上條氏の書いた急性中毒の本が面白いわけがないではないか(実際に面白い)……と、それだけで私の感想はほとんど尽きてしまいそうである。

簡単に中身を紹介すると、第1章「初期対応の考え方」では常法どおり、中毒物質の推定法、合併症、治療原則を述べている。記述はきわめて簡潔かつ正確であり、新しい知見もきちんと盛り込まれている。第2章では重要な40の中毒物質をとりあげて解説しているが、この選択には著者の臨床的センスがよく現れている。特に中毒メカニズムに重点をおいた記述や「イラスト」の使い方はすばらしい。

第3章「急性中毒と精神医学」と第4章「向

精神薬の致死的副作用」の存在理由は、著者が精神医学の研鑽を積まれたあとで救急医学に加わったという経歴を知らなければ、理解できないかもしれない。しかし、今や、重い急性中毒患者の大部分が自殺企図であるという事実を知れば、この2つの章の重要性は納得されるであろう。

このように本書は、構成、内容ともにかなりユニークであり、著者である上條氏と監修者である相馬教授の豊富な臨床経験あるいは臨床教育の経験が巧みに反映されている。

ただ、個人的には、気に入らない点がひとつだけある。本書の題名に付いた「イラスト&チャートでみる」という余計な修飾である。「イラスト」だとか「チャート」だとか「マニュアル」とかの文言が表紙に書かれていると、私はその本を手にとらないことにしている。人々が忙しくなって深くモノを考える暇がなくなったためか、近年、薄っぺらな内容の本がとみに増えた。そのような本を読んでいると、かえって、限りある人生の時間を無駄にしているように思えてならない。

題名に文句をつけてしまったが、本書は決して内容の薄っぺらな本ではない。中身が濃いことは保証する。

(愛媛大学救急医学)

● A5 368頁 2005 定価 3,990円 (本体 3,800円+税) 医学書院